

World Tourism Update

Bimonthly Newsletter of Tourism Education & Research

WTU No.1 / 2013.5

UNWTO, WTTC ー2 機関を中心とした観光教育、研究に関わる世界の情報ー

World Travel and Tourism Council 13th Global Summit: Time for Leadership

World Travel and Tourism Council 13th Global Summit (9-10 April) が *A Time for Leadership* をテーマにアブダビで開かれた。テーマ別セッションでは航空、ホテル、資源利用、入国審査とビザ、テクノロジーとソーシャルメディアについて議論された。会長ビル・クリントンの講演など、すべてのセッションはビデオで見ることができる。
(<http://www.wttc.org/events/abudhabi-2013/videos-on-demand/>)

第14回大会は中国、海南省で Travel & Tourism. Development potential をテーマに開かれる (23-25 April, 2014)。



Tourism Destination Management and Marketing Certificate Program

George Washington University School of Business のオンラインコース Tourism Management and Marketing Certificate Program では、必修、選択それぞれ3科目を2年間で修了することで学位 (Certificate) が得られる。新しく加わった科目「Safety and Security for Tourism Destinations: Achieving a Safe and Secure Tourism Environment」はじめ、30あまりの科目から選択可能。他にもイベントマネジメント、ホスピタリティ、スポーツ・ビジネスマネジメントのコースを履修することができる。

<http://www.tourismandmore.com/tourism-on-line-education/>

UNWTO and UNODC launched new campaign to reduce illicit trafficking

The World Tourism Organization 世界観光機関 (UNWTO) と The United Nations Office on Drugs and Crime 国際連合薬物犯罪事務所 (UNODC) は4月5日マドリードで観光における不正取引の認知促進キャンペーンに調印した。

この共同キャンペーンは今年の後半より開始される、国際観光客の犯罪組織に資金供給する可能性のある不正商品・不正サービスについての認知向上に向けた取り組みである。ここでは、観光客が不法薬物や、象牙製品といった動物系・植物系に関わる野生生物、文化的工芸品や偽者商品の個人売買に対する十分な情報を得た上で、需要減少に向け消費者主体の倫理的選択を促すことが目的となっている。UNWTO と UNODC はホテル、観光会社、航空会社の協力を基に、不法取引の撲滅に向けた認知向上キャンペーンを積極的に進め、旅行者に責任と敬意あるマナーの向上を提起と同時に、合法製品の売買を証明するライセンス制度を国家レベルで確立することも急務の問題である。

<http://www.un.org/apps/news/story.asp?NewsID=44575&Cr=touris&Cr1#.UYiTEaLJat4>



Research and Journals ー主な論文、特集号、新刊紹介ー

Last Chance Tourism

「氷河が消えてしまう前に」、「ホッキョクグマが絶滅しないうちに」など、希少種や消え行く風景をテーマとした *Last chance tourism* (Harvey et al, 2012; Dawson et al, 2010, 2011; Ejjelaar et al, 2010; Lemelin et al, 2010)。ホッキョクグマを見る、キリマンジャロの雪渓を歩く、ツバルやキリバティなどの小島国を訪れるなど、環境変化のもと、絶滅に瀕した動植物、変わりつつある景色が消え去る前に見届けること



は多くの人の関心を呼ぶ。が、そこに行くこと自体が環境への負荷を増大させ、消え行くものを本当に消してしまうことになりかねない。ツーリズムによる CO2 排出量は全世界排出量の 5%を占め、その 75%は交通、うち 45%が長距離フライトによるとされる。特に *Last chance destination* は行くまでのカーボンフットプリントも大きい。訪れたことで環境意識が高まる、オフセットや寄付で環境保全に貢献することも確かに可能だ。しかし、それで環境負荷そのものが消えるわけではない。ツーリスト、またツーリズムに関わるものの倫理を問う大きな問題だと言える。

(Travel's most endangered destination, <http://www.nbcnews.com/id/25737162/>)

Dawson, J. Johnston, M., Stewart, E. C Lemieux, R Lemelin, Maher, P and B. Grimwood. 2011. Ethical consideration of last chance tourism, *Ecotourism*, Vol. 10 (3): 250-265.

Dawson, J., Stewart, E. C Lemieux, Lemelin, H. and D Scott. 2010. The cost of polar bear viewing tourism in Churchill, Canada. *Journal of Sustainable Tourism*, Vol. 18 (3): 319-336.

Eijgelaar, E., Thaper, C. and P. Peeters. 2010. Antarctic cruise tourism: the paradoxes of ambassadorship, Last chance tourism and greenhouse gas emissions. *Journal of Sustainable Tourism*, Vol. 18 (3): 337-354.

Harvey, R., Dawson, J. and E. Stewart. 2012. *Last chance tourism: adapting tourism opportunities in a changing world*. Abingdon: Routledge.

Lemelin, Harvey, Dawson, Jackie, Stewart, Emma, Maher, Pat and Michael Lueck. 2010. Last chance tourism: the boom, doom, and gloom of visiting vanishing tourism destinations. *Current Issues in Tourism*, Vol. 13 (5): 477-493

「Annals: 40-40 vision」

Honggen Xiao, Jafar Jafari, Paul Cloke, John Tribe, *Annals of Tourism Research*, Vol. 40. pp. 352-385. 2013



Annals of Tourism Research は観光の学術的見方に焦点を当てた、ソーシャルサイエンスジャーナルである。40 年間に渡り観光理論とその研究を進める一方で、様々な学問領域の団体や学者によって観光の理論構成を発展させてきた。今回 40 周年という節目を迎え、「Annals: 40-40 vision」と題する観光研究のレビューを発行した。過去 40 年間の振り返り、歴史の変化や知識情報の動向とジャーナルの研究傾向をまとめると同時に、今後の観光研究の今後についても言及されている。観光の過去・現在・未来を読み取ることができ、今後研究題材を探る学生にとっても有用なる内容となっている。

オンラインアクセス可能なジャーナル (*Limited access)

和歌山大学では、オンラインアクセス可能な海外のジャーナルを読むことが出来るのをご存知でしたか？
上記の *Annals of Tourism Research* を含め、7 種類のジャーナルを閲覧できます。是非アクセスしてみてください。

●Annals of Tourism Research (Quarterly)

<http://www.sciencedirect.com/science/journal/01607383>

●Current Issues in Tourism (8 issues)

<http://www.tandfonline.com/toc/rcit20/current>

●Journal of Sustainable Tourism (8 issues)

http://www.tandfonline.com/loi/rsus20?open=18&repitition=0#vol_18

●Journal of Travel Research (Quarterly)

<http://jtr.sagepub.com/>

●Journal of Tourism and Cultural Change* (Quarterly)

<http://www.tandfonline.com/loi/rtcc20>

●Journal of Travel and Tourism Marketing* (8 issues)

<http://www.tandfonline.com/toc/wttm20/current>

●Tourism management* (8 issues)

<http://www.sciencedirect.com/science/journal/02615177>

Conferences, Seminars –世界各地の主な学会(CFP 情報)、セミナー–

●2013/6/5 - 8 ICOT 2013 (The International Conference on Tourism) Limassol, Cyprus

ICOT 2013
6-8 JUNE 2013

Trends, Impacts and Policies
on Sustainable Tourism Development

概要：本学会では、観光の専門家や研究者等が意見交換とディスカッションを通じて観光の持続可能な発展を考える上でのトレンド、インパクト、政策等について検討することを目的とする。

CFP：下記 URL にアクセスの上、アカウント作成後、確認することが出来ます。

<http://www.iatour.net/icot2013/>

● 2014/2/10 - 13 CAUTHE 2014 (The Council for Australasian University Tourism and Hospitality Education) Brisbane, Australia



概要：CAUTHE は、大学をはじめとする研究機関や、観光、ホスピタリティ産業に関わる組織における観光とホスピタリティ教育の促進と発展、またそれらに関わる組織連携の推進、そして産業界、政府、地域に対して大学の観光とホスピタリティ教育への関心表明によって研究の深化、発展を目指している。

CFP：Full Research Paper の〆切は 10/31、Working Paper は 11/30。また、参加申し込みについて、早期割引が適用されるのは 11/30 までとなっている。

<http://www.tourism.uq.edu.au/CAUTHE2014/>

● 2014/7/13 - 19 XVII ISA World Congress of Sociology Yokohama, Japan



概要：国際社会学会、日本社会学会のような国別の社会学会の集まりである各国社会学会評議会と研究テーマごとのリサーチコミッティ(RC)の二つの組織から構成されている。個々の研究者としての活動は特定の RC に所属することから始まり、RC のニューズレターの受け取り、RC セッションでの報告、さらには RC の研究活動に積極的に関与するといった活動につながっていく。

CFP：RC のセッションの企画、司会についての募集は既に終了。また、個人報告の応募締め切りは 9/30 (6/3 より受付開始) となっている。

<http://www.isa-sociology.org/> 日本語版は<<http://wcs2014.drupalgardens.com/>>

Topics ーコラムツーリズムに関する世界のニュースー

院生、教職員からも受け付け中！

★[ベトナム・インドシナ]日本など7カ国へのビザ免除廃止を検討：観光業界は猛反発 (4月11日付サイゴンタイムズ)

【NNA 4月12日(金)8時30分配信】

日本を含む7カ国の国籍保持者に認められているビザ(査証)免除に廃止の動きが出ている。ビザ申請が必要になれば、観光客が激減するとして業界は反発を強めている。

http://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20130412-00000007-nna_kyodo-asia<<http://english.thesaigontimes.vn/Home/business/tourism/28684/>>

★うっ、長い…大陸縦断の寝台列車「ホームからはみ出しています」(4月13日産経新聞)

午前10時30分。出発まで2時間近くあるにもかかわらずアデレード・パークランズ・ターミナル駅は頬を上気させた旅行者でごった返していた。オーストラリア大陸を縦断する寝台列車「ザ・ガン」に乗るのだ。人ごみをすり抜けてホームに出る。うっ、長い。強い日差しを浴びてきらきら輝くメタリックの車両が、右手にも左手にも見渡す限り延びている。先頭も最後尾も見えない。34両編成、900mの列車がダーウィンまで2日半の旅に出る。

＊＊2004年ドイツWDR放送「ザ・ガン」(サイモン・ワーン、ゲートポールマン制作)がセンターに、同路線の貨物列車や北クイーンズランド州キュランダの観光列車の映像がドームシアターにあります。ご興味のある方、どうぞお申し出ください。

<http://www.iza.ne.jp/news/newsarticle/living/hobby/646289/>

<http://www.ats.co.jp/gsr/ghan/journey.html>



★旅行サイトで1クリック、ユニセフに少額寄付 (4月11日 MSNトラベル)

旅行ウェブサイトでは航空券の購入やホテルの予約などを行う際に、国連児童基金(ユニセフ、UNICEF)に1~2ドルを寄付しませんか。こんなプロジェクトを、観光業界向けIT支援企業のアマデウス(Amadeus)が立ち上げた。

<http://extras.jp.msn.com/travel/article.aspx?post=5bcf089e-f688-40e3-857d-1870d678233e>

<http://www.amadeus.com/amadeus/x227319.html>



和歌山大学 観光学部 観光教育研究センター
Location: 観光学部研究棟 208
Contact us: tourism-er@center.wakayama-u.ac.jp
<http://www.wakayama-u.ac.jp/tourism/tourism-er.html>